

< 編集後記 >

ほとんど周りの事情がわからないまま農学部から編集委員として参加させていただいております。ついに編集後記を書く順番が回ってきてしまいました。いつも編集委員長が手際よく原稿内容を検討し決めておられるのには感心させられます。今回の内容もぱぱっと1時間以内にほとんどが決まり、腕の良さに感心させられます。

昔はちょっと容量が多かったり複雑な計算をしようとするとしても、大型計算機に頼らざるを得ませんでした。最近では自分たちの研究室にある小さいものでも十分やりこなせるようになり、また複雑な機器類にもそのデータ解析には事足りるコンピュータが付属することで、ほとんど大型を利用することもなくなってきました。これは私だけではなく多くの方が感じていることのようにです。今回の編集会議でも話題としてのぼってきました。活発な論議が行われ、今後広報誌をいかに魅力のあるものとするかなどを考えるもとなったような気がします。これからますます情報が重要かつ一般化してくることは誰でもが予測していることで、情報連携基盤センターがいかにその中心として存在するかが重要な課題の一つとなることでしょう。そういうなかで広報誌はますます重要性を増してくると思っています。

我々のように生命科学を題材にして研究しているとまるで新たな生命体が生まれ成長していくように感じます。地球環境生命体が多くネットワークを作って存続できていることが最近やっと口々に言われるようになってきました。しかし情報生命体を構成する個々の細胞としてのコンピュータは少しまだぎくしゃくしてうまくつながっていない状態で、これから大きな進化が起こるように感じられているのはわたしだけでしょうか。

(T.T.)